

終章

今回の自己点検・評価の作業は、第三期自己点検・評価委員会が2004年5月1日を基礎データ基準日として2004年から2006年にかけて実施し、その内容を理事長及び学長に報告し、「平成16・17年度 自己点検・評価報告書」としてまとめた作業と、それを受けて理事長及び学長において進められた改善事項をふまえ、2007年5月1日を基礎データ基準日とする認証評価に向けたさらなる新たな活動であった。

財団法人大学基準協会を評価機関として認証評価を受けるために指示された点検・評価項目に基づき、通信教育課程に関する点検・評価も加え、あらためて、本委員会と実務作業委員会による詳細な点検・評価活動を行った。前回の基礎データ基準日である2004年5月1日から今回の基礎データ基準日である2007年5月1日までの三年間には、造形学部通信教育課程および大学院博士後期課程の完成年次を迎えるなど教育組織の拡充や、「特色ある大学教育支援プログラム」、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」の採択や、教授／准教授制度への移行、海外提携大学の増加など充実が図られた。また、施設・設備の充実に向け2009年の創立80周年を契機とする種々の施設拡充が具体化し、校舎の増改築が準備段階に入った。

この報告書をまとめる段階で、改善・改革方策として挙げられた課題、とりわけ、施設・設備の充実については、建築計画大綱、中期財政計画を策定し、現実に向け、着々と進められていた。また、制度の整備や種々の取り組みへの改善提言についても、順次実現するべく、その多くが着手されている段階にあった。これは、前回の自己点検・評価活動をふまえた改善事項についての取り組みが積極的に行なわれ、私立の美術大学として教育理念の実現及び教育目的の達成のために、さらなる充実と発展を意図する全学的取り組みが絶え間なく積極的に続けられていることの証である。

今回の認証評価に向けた自己点検・評価活動による現状把握、点検評価を経た改善・改革方策について、財団法人大学基準協会よって示された15の大項目毎に主要な点を掲げることとする。

1. 大学の理念・目的及び学部・大学院の理念・目的

前身の帝国美術学校の創立から継承されてきた本学の教育理念と目的は、学部、博士課程を有する大学院、学部通信教育課程という充実した教育研究組織として実現しているが、国際化、高度情報化が進む今日、グローバルな見地からも再度その意義が検証され、来る80周年を記念する諸事業を契機として、より一層の充実と周知徹底を図る。

2. 教育研究組織

美術・造形に特化した専門性の高い単科大学という限られた人員と規模に配慮しつつ、それぞれの組織での教育研究を充実させていく。

3. 教育内容・方法等

時代に即応して2003年度に学士課程において施行された新教育課程のより効果的な運用及び美術大学の特性といえる多様な専門教育授業の充実を大学院、通信教育課程を含め計っていく。また、国際交流、国内他大学との単位互換、地域、産官学との連携等、これらの更なる運用、発展について、検証及び改善への努力を常時継続して行く。

4. 学生の受け入れ

18歳人口の減少、高等学校における芸術教育の時間数減少の中、公募制推薦入試やセンター試験導入など、多様な入試制度を実施して優秀な学生を確保する努力を続けるとともに、今後の動向を見据えた学科定員の検討等も継続していく。

5. 教員組織

実技演習を特徴とする美術大学の特殊性に鑑み、通常の専任教員に加え、より多様で柔軟な教員の雇用形態を実現して教員の充実を維持する一方、特別任用専任教員等の充実をはかり、専任教員数の増員も検討していく。

6. 研究活動と研究環境

美術大学として実技系分野に特化した状況にあるため、専門分野における対外的な活動を含む種々の研究は活発で、本学が制度的に備える研究環境も十分、活用されている。近年、産官学共同研究や特色GP、現代GPといった競争的資金も増えているが、科学研究費補助金申請等の獲得についてはさらに改善し充実させていく。

7. 施設・設備等

学科の増加に伴い、教育施設は増加しているものの、美術資料図書館等一部の老朽化した施設の改築等、キャンパス全体の構成を含めた計画立案と建築計画を継続して、施設の充実をはかるとともに、整備されてきた情報インフラのさらなる充実と危機管理等を含む体制の充実をはかる。

8. 図書館および図書・電子媒体

2009年度の竣工を目指して、美術資料図書館を増改築する計画が進行中である。なお、その施設整備にともなって、膨大なコレクションを有する美術および映像資料等の体系的な整備を実現する。

9. 社会貢献

公開講座、地域フォーラム、地方自治体との連携、産官学協同プロジェクトなど、社会への様々な形での積極的な参画が恒常的に実施されており、今後は、さらなる充実と発展を意図する一方、対社会への広報にも注力したい。

10. 学生生活

学生数の増加に比して、キャンパスアメニティーの充実が遅れているが、80周年記念事業を契機としたキャンパス構想によって、課外活動施設の充実により学生生活が充実する環境整備を実現する。また、大学院修士課程の学生を対象とした奨学金の充実、保健室体制の見直し、就職活動等に関するより一層の情報開拓と提供を実現したい。

11. 管理運営

本学は11学科からなる単一学部のため、全学一致体制で管理運営を行っており、大学・法人業務調整会議、学長室会議等の整備により円滑に運営されている。

12. 財務

健全な財務運営がなされている。本学として、より積極的に外部資金獲得を検討すべきである。

13. 事務組織

役割は適切に果たされているが、国際交流、入試、就職等の業務においては、専門職員の採用についても積極的に検討すべきである。

14. 自己点検・評価

自己点検・評価制度に基づき、公正な点検・評価活動および改革・改善の努力を続ける。

15. 情報公開・説明責任

財務公開等の情報公開については一定の水準に達してはいるが、よりわかりやすい表現方法を工夫すべきである。

以上、本報告書の総括として、自己点検・評価のポイントに関して、そのあらましを記したが、今回の自己点検・評価を通して改めて認識したのは、本学が、私立大学として、また美術、デザインの専門的な高等教育機関としての特殊性を有し、かつ、我が国における先導的的使命を担う美術・デザインの専門大学として、不断の改善・改革への更なる取り組みの重要性であった。

刻々と変化する激動の社会状況の中にあって、創立以来の建学の精神と理念を堅持し、同時に、求められる時代に合った高度な能力を有する人材育成を旨とする大学であり続けるために、また、その社会的責任を果たし続ける大学であるために、今回の認証評価の機会を生かし、さらなる充実と発展を遂げることにより、我が国の創造的感性を育む教育の場としての存在をより確固たるものへと築きあげていきたいと願うものである。

武蔵野美術大学自己点検・評価委員会

長澤忠徳

稲葉 直

上野芳朗

片田 博

神野善治

小林昭世

白石美雪

羽生龍彦